

学内説明会資料

研究マネジメント総合支援システム (REMS) 利用説明会

 2026年 3月30日 (月)

 14:00 ~ 15:00

主催
大阪大学 オープンサイエンス推進室

本日のアジェンダ

2026.03.30 | 大阪大学

AGENDA

START
14:00

REMSを構築した背景、主な機能

オープンサイエンスの世界的潮流と、研究管理における2つの大きな変化（DMP作成必須化・OA義務化）について解説します。

14:15

システムのデモ

REMSの実際の画面を用いて、研究者の皆様が行う操作（DMP作成、業績登録など）を実演します。

14:35

質疑応答

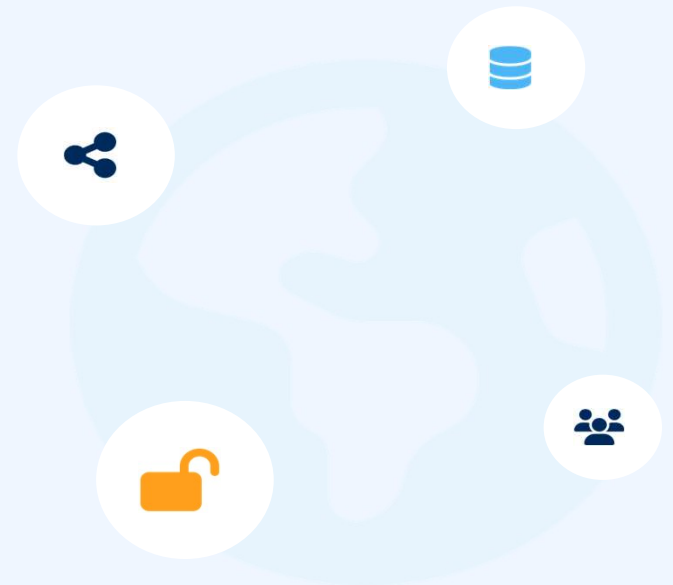
皆様からのご質問にお答えします。15:00終了予定です。

BACKGROUND

オープンサイエンス： 世界の潮流と日本の現在地

近年、研究成果の透明性、再現性、そして社会への還元を最大化するため、オープンサイエンスが世界の標準になりつつあります。

これは一部の国や機関だけではなく、G7をはじめとする世界的な共通認識です。





世界の主要な動き（年表）

2000s	2002	BOAI	OAの定義	オープンアクセスの定義を確立した最初の国際的イニシアティブ
	2003	ベルリン宣言	機関への拡大	知識へのオープンアクセス推進を広範な組織に要請
	2007	OECDガイドライン	データ共有の始動	公的資金による研究データのアクセスと利用に関する原則
2010s	2013	G8科学大臣会合	政治的コミットメント	研究データのオープン化に関する共同声明を発表
		DORA	評価指標の改革	研究評価に関するサンフランシスコ宣言
	2016	FAIR原則	データの標準化	データ公開の質を担保する4原則（Findable, Accessible...）
	2018	Plan S	即時OAの義務化	欧州の助成機関連合による強力なOA方針
2020s	2021	UNESCO勧告	世界的合意	193カ国採択。オープンサイエンスに関する包括的勧告
	2022	米国OSTP覚書	米国の転換	ネルソン・メモ。論文・データの即時公開義務化（エンバーゴ撤廃）
	2023	G7仙台大臣会合	OSの標準化	OSを科学の標準とすることを確認

DOMESTIC TRENDS

日本の研究管理に訪れる2つの変化

国の指針により、研究環境に新しいスタンダードが導入されています。



データマネジメントプラン（DMP）の作成必須化

研究データの管理・利活用に関する方針（2021）



即時オープンアクセス（OA）の義務化

即時OAの実現に向けた基本方針（2024）



CHANGE 01
DMP作成必須化



CHANGE 02
即時OA義務化

変化①：DMP必須化 - 概要と経緯

！ 公募型研究資金での必須化

2024年度以降、科研費を含む公募型公的研究資金において、研究開始前のDMP作成等が求められています。

※研究データの管理計画を立て、それに基づいて適切にデータを管理・保存・利活用することが求められます。

≡ DMPに記載する主な項目

- ✓ データの種類・形式
- ✓ 保存場所・管理者
- ✓ 公開・非公開の方針
- ✓ 利活用の条件

🔄 DMP義務化の段階的導入

2016年度～



戦略的創造研究推進事業
(CREST, さきがけ等)

DMP提出を義務化

2018年5月～



一部の新規公募事業

DMP提出を義務化

2024年度～



科研費の全研究種目

DMP作成を必須化

研究データ管理（RDM）とDMPの関係



≡ DMPにおける対応フェーズ

研究の初期段階

START

1 DMPの作成（計画）

研究目的に応じたデータの管理計画を策定。
収集・保存・共有・公開戦略を定義。

研究の途中段階

DOING

2 DMPの実行・更新（収集～分析）

計画に沿ってデータ管理を実施。
形式変更や公開方針変更など、必要に応じて更新。

研究の終了後

END

3 DMPの最終評価（保存・公開）

データの整理、アーカイブ、公開の最終決定。
計画達成状況を評価し、今後の研究へフィードバック。

💡 Living Document: DMPは静的な文書ではなく、研究の「計画」か「公開」までのサイクルに合わせて、常に更新され続けるべきものです。

変化②：OA義務化 - 概要と条件

2025年度以降の公的資金による新規公募プロジェクトから、成果の即時公開が義務化されます。

◎ 対象となる競争的研究費



科学研究費助成事業
(科研費) 全種目



戦略的創造研究推進事業
創発的研究支援事業



戦略的創造研究推進事業
(革新的先端研究開発支援事業)

≡ 即時OA義務化の3つの条件

1



査読あり

査読プロセスを経た論文



2



電子ジャーナル掲載
学術誌等の電子媒体



3



即時OA義務

論文と根拠データの
即時公開が必須

AND条件 (すべて満たす場合)

適用開始時期



2025年度以降の新規公募

※採択プロジェクトより順次適用

推奨される対応方法



グリーンOA (推奨)

原則として機関リポジトリでの公開を実施

OAを実現する2つの方法

1 ゴールド OA

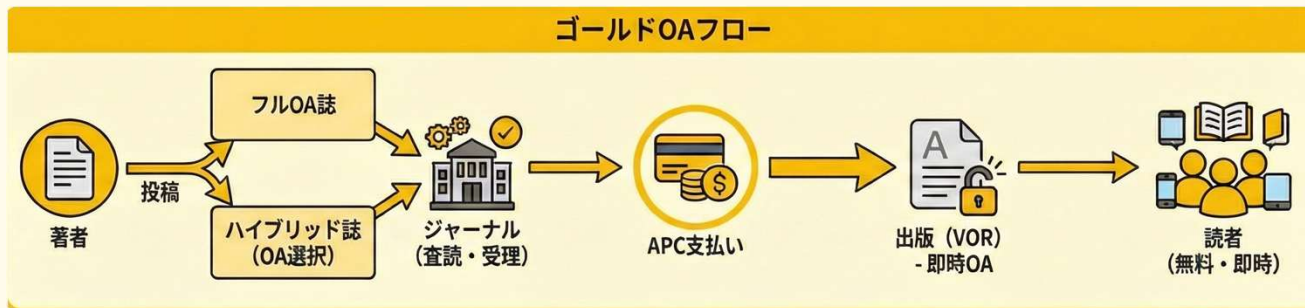
出版社にAPC（論文掲載料）を支払い論文を出版社のサイトで公開するモデル。

👍 **メリット**

出版即OA完了
手続きがシンプル

⚠️ **デメリット**

高額なAPCが必要
(数十万~100万円超)



or

2 グリーン OA

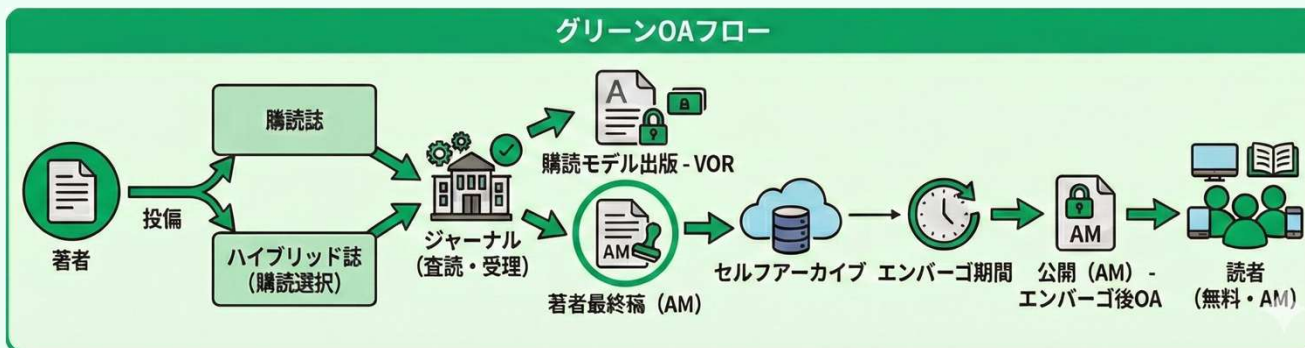
購読誌に掲載された論文の「著者最終稿 (AM)」を、機関リポジトリ等で公開するモデル。

👍 **メリット**

APCが不要(コストゼロ)

⚠️ **デメリット**

ポリシー確認が面倒
版管理が必要





2つの変化がもたらす、新たな課題

OA義務化とDMP作成必須化により、研究現場には多種多様なタスクが同時に発生し、研究者を圧迫しています。

OA方針の選択

ゴールドOAにするか？グリーンOAにするか？
APC（掲載料）の予算はどう確保するか？

メタデータの付与

論文・データに適切なメタデータは何か？
分野によって異なる必須項目はあるか？

研究成果との紐づけ

論文はどの研究データと紐づくか？
成果はどの競争的資金に由来するものか？

DMPの作成

どの様式（テンプレート）で作成すべきか？
共通項目以外の自由記述項目は？

出版社ポリシーの確認

投稿先ジャーナルの著作権規定は？
エンバーゴ（公開猶予）期間は何ヶ月か？

リポジトリへの登録方法

登録は著者最終稿(AM)か出版社版(VOR)か？
いつ登録すべきか？
(投稿前・アクセプト後・出版後)

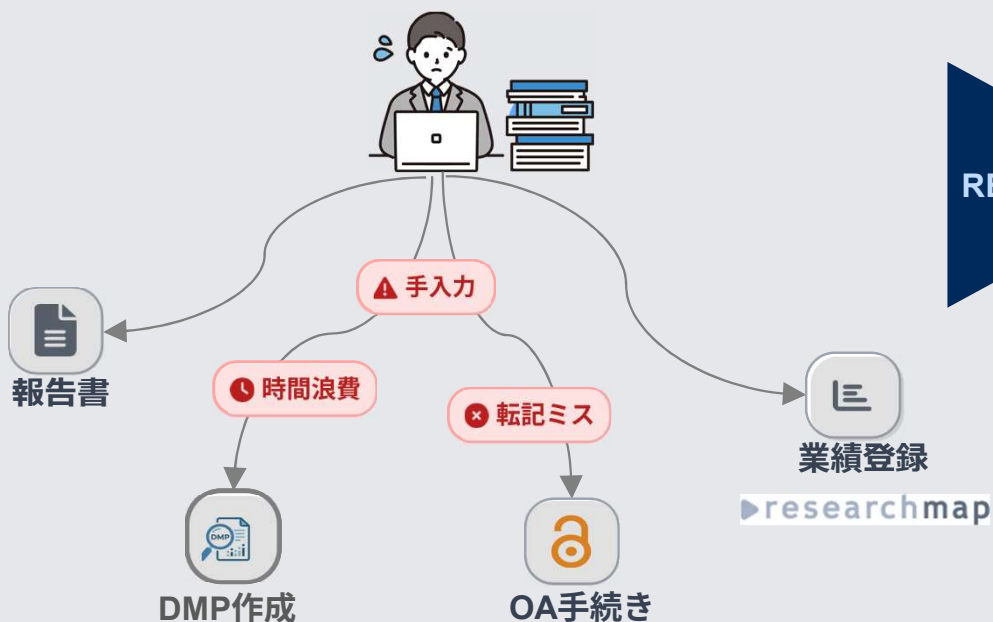


その課題、大阪大学では REMS で解決可能です

研究者

BEFORE

個別対応による煩雑さとリスク



対応状況の可視化



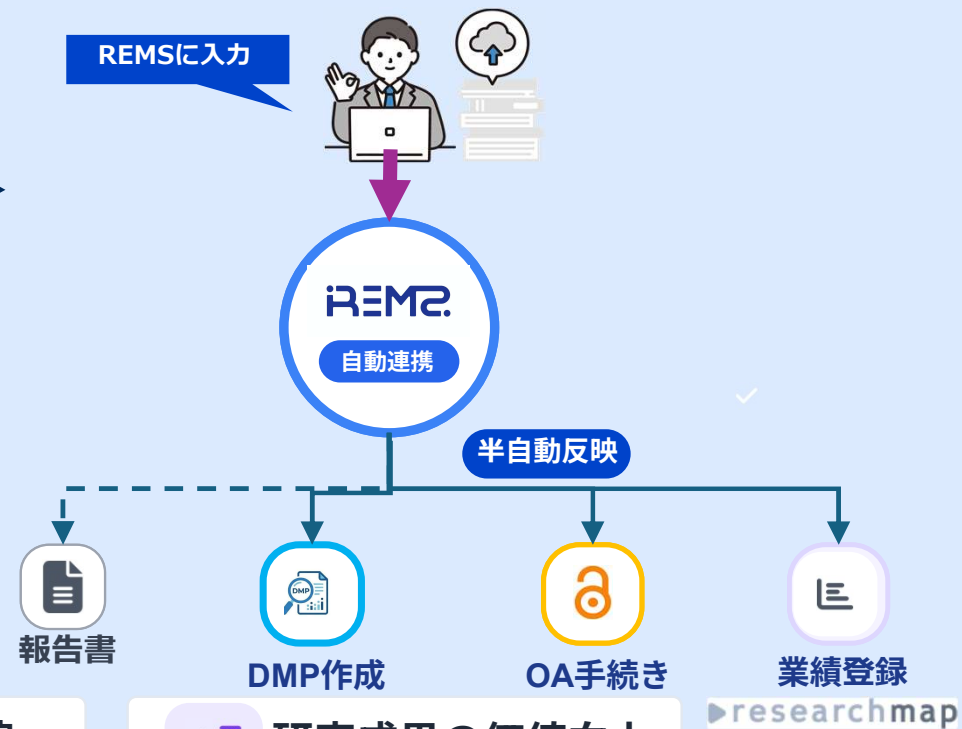
事務作業の短縮



研究成果の価値向上

AFTER

ワンストップによる効率化と安心



researchmap

SOLUTION

その課題、大阪大学では REMS で解決可能です

Integrated System



「大阪大学オープンサイエンス推進室」で検索



REMS導入の3つのメリット



01

義務化対応の効率化と 抜け漏れ防止

OA義務化やDMP作成必須化といった複雑な制度要件への対応をシステムがナビゲート。

対応状況を可視化できることで、提出期限のうっかりミスや対応漏れを未然に防ぎます。

✓ 安心のコンプライアンス対応



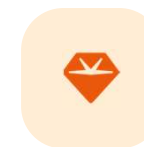
02

業績登録・報告の手間を 削減

一つのシステム利用でresearchmapや機関リポジトリ（OUKA）、さらには学内の業績調査においても情報が自動連携

これまで何度も行っていた重複登録作業から解放され、本来注力すべき研究活動に専念できます。

↓ 事務作業時間を大幅短縮



03

研究成果の価値向上

論文および根拠データといった研究成果を、DMPや予算情報と紐づけて管理・公開。

研究プロセスの透明性と再現性が向上し、研究成果全体の信頼性と学術的価値を高めます。

↗ 被引用数・認知度の向上へ

デモの流れと質疑応答

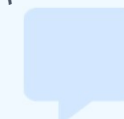
▶ デモ実施項目

- 00  **サインイン**
SSOログインの確認
- 01  **researchmap連携**
業績情報の取り込み設定
- 02  **プロジェクト・予算登録**
研究課題と資金情報の管理
- 03  **研究業績登録・論文管理**
研究成果の登録と整理
- 04  **機関リポジトリ登録**
グリーンOAのためのファイル登録 OA対応
- 05  **DMP作成・更新・出力**
データマネジメントプランの管理 DMP対応
- 06  **アンケート作成・集約**
学内調査等の回答機能



ご質問をお受けします

お気軽にご質問ください





サポート情報・お問合せ



マニュアル・説明動画

ご案内メールに添付した 操作マニュアル、および リンク先の説明動画をご確認ください。



お問合せ先

ご不明な点は下記までご連絡ください

rems@office.osaka-u.ac.jp

※説明会のご案内メールから返信可能です



今後の開発予定

先生方の声をお聞きしながら追加開発を行い、新機能は順次リリースしていきます。



researchmapの研究業績

先生方の研究業績はご自身で取得する必要があります。
マニュアルをご参照のうえ、researchmapとの連携設定をお願いします。